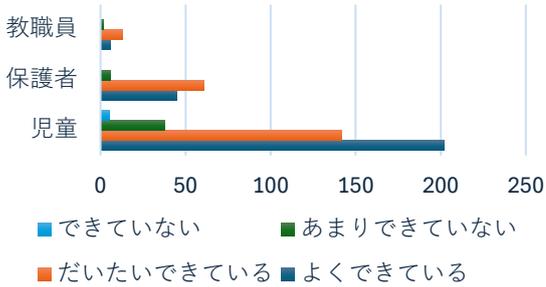


主な成果と課題

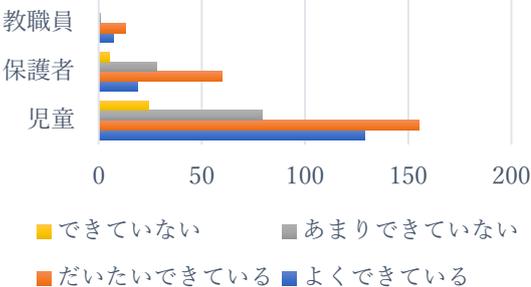
自分からあいさつする



〈やさしい子〉NO.1~5

「やさしい子」を育むための取組について振り返った設問 No1~No5では、全体的に実現度の高い結果となった。児童・保護者・教職員ともに90%以上が「学校に楽しく登校している」と感じており「目指す学校像」でもある『期待の登校 満足の下校』を実現できていると感じている。「挨拶」については、実現度が上がっていた。児童自身が自分から取り組んでいることも前進で、昨年度から継続している「あいさつ運動」の取組の成果があったと考えている。また、保護者もその姿勢を肯定的に捉えており、家庭との連携がうまくいっていると感じている。他にも「たてわり活動」などの異学年集団での関わり合いや、「なぜ挨拶が大切なのか」を道徳学習や学級活動で考える時間の積み重ねが、自然に挨拶し合える結果に結びついた要因の一つだと思われる。

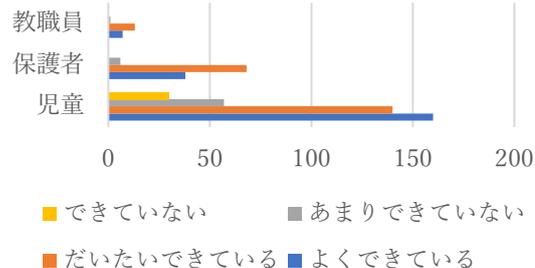
自分の考えや気持ちをみんなに伝えることができる



〈かしこい子〉NO.6~10

「8. 自分の気持ちや考えをみんなに伝える(児童)、授業中進んで自分の思いを伝えるように励ましている(保護者)」などの実現度は、70%台と今年度もやや低かった。対して、「児童に自分の思いを伝える機会を多く設けている(教職員)」は90%台と高い傾向にあった。発達段階も考慮する必要があるが、授業での取組をより効果的に作用していく工夫も同時に必要になると受け止めている。また、アンケート結果に関わらず、全ての子どもたちが安心して話せる学級づくりに努めていく姿勢は、今後も教職員の共通認識としてもち続けたい。

困ったときは相談している



〈たくましい子〉NO.11~15

「14. 困ったことがあれば先生に相談している(児童)」については、約77%の児童が「相談できている」という結果が出ていた。日々の児童と教職員との関わりの中で「話しかけやすい存在」として認識されていることを示している。教職員の姿勢(傾聴・共感・受容)が児童に伝わっている成果だと受け止めている。また、双方向のコミュニケーションが根づきつつある兆しだと感じている。

反面、約23%は「相談できていない」と感じている層が存在している。この層に対しては、より多様な関係構築や相談のきっかけづくりを進めることで、さらに学校全体の安心感を高めていきたい。

〈自由記述より(抜粋)〉

- 「本アンケートは匿名での実施が望ましいのではないかと」のご意見がありました。匿名式、記名式はそれぞれ一長一短ありますが、一方通行のアンケートではなく、双方向の関係づくりを願っておりますので記名式とさせていただきます。学校と保護者との間に「対話の窓口」が生まれるアンケートの実施を目指していきたくと考えております。
- 「下校時刻に変更がある際、前の週より早く教えていただきたい。」のご意見がありました。児童の安全のため、今後も可能な限り早くお伝えできるように努めてまいります。

〈その他 学校運営協議会でのご意見〉

- ・幼少期から「好き嫌いなく食べること」ことは大切であり、大人になったら影響が出てくる。今後も「食育」を大切にしてほしい。
 - ・国語力育成のために「おはなし玉手箱」の取組が入口となり、本に親しむ機会を増えることを願っています。
 - ・SNSの問題は「使わない」だけの指導ではなく、「便利なものをどう使うか」を大人がうまく伝えていく必要がある。
- アンケートのご協力ありがとうございました。第2回桃山教育アンケートもどうぞよろしくお願いいたします。